

新春特集

退職後の夢は？ 生活は？ 組合活動は？ 団塊の世代に聞く「第二の人生」

団塊世代の大量退職時代が2007年度から始まる。連合北海道は生涯組合員構想を掲げているが、同世代の人々は第二の人生設計をどのように描いているのか、また、退職後、組合活動にはどのように関わっていく意向なのか。昭和20年代前半生まれの方々6人にお聞きした。

「もうすぐ還暦」

道幸 哲也 さん(北大教授・昭和22年生まれ)

1947年生まれは、もうすぐ還暦になる。「もうすぐ」という表現は「もうすぐお正月」とか「もうすぐクリスマス」とか、なにか心躍るニュアンスがある。もうすぐ還暦となると先が見えたことを意味する。



景気の拡大基調があるとはいえ、失業率は高く、格差社会化は顕著である。労働組合の組織率も18%近くに低迷している。先が見えたとはいえ、これではおちおちリタイアもできない。そこで、初心に戻ってなぜ労働法に興味を持ったかを述べたい。

小学校低学年では、午前授業と午後のそれがあった。中学校では70人学級という例さえあり、札幌の某有名進学校は1学年20クラスだった。今思うと超すし詰めの中で学校時代を過ごしたが、あまり不便も感じず、のんびりしたものであった。

そんな中で、社会や労働に興味を持ったのは中学時代にニュースで見た三井三池の炭炭の大争議であった。また、この一連の争議のことを書いた後藤象二郎弁護士の『労働者の法律問題』という岩波新書を高校時代に読んだのが決定的であった。こんなおもしろい世界があるのかと思った。その後、1969-70年の政治的争乱状態の中なんとか大学院に入り、労働組合法の研究を始めた。あれから35年以上たったが、まだよくわからないことが多い。もうすぐ還暦なのに。

「上司や部下に恵まれてきた」

今井 正一 さん(昭和22年生まれ)

遠くない将来、自分が介護する時代から、自分が介護される時代になるだろうと思う。日頃から健康に気をつけているわけではないので、酒や煙草は控えなくてはならないと思っはいるのだが、できるかどうか……。



退職後の生活については、まだ実感はない。大きな夢や具体的にやりたいこともことさらあるわけではなく、あえて言えば平々凡々な生活することが夢だろうか。ソフトテニスという趣味もあるが、現在腰を痛め中断しており、治り次第再挑戦を考えている。

組合活動については、退職後にも要請があれば、連合活動等に積極的に協力していきたいと思っている。OB会などで活動していきたい。

団塊の世代に生まれたということで、嫌だったという記憶はない。むしろ会社生活において上司・部下に恵まれてきた。今はそのことに感謝している。

「今はまだ実感がないが……」

小柳 利治 さん(昭和23年生まれ)

退職後の生活について、先輩方からは「趣味を持ったほうがいいぞ」とか「今のうちに退職後のことを決めておいたほうがいいよ」といったアドバイスはいただいているが、3年後のことでもあるし、日々のことで精一杯で、今はまだ何も考えていない。ただ、ずっと共働きで妻は旅行にもあまり行ったことがないので、いっしょにのんびり旅行で暮らしたいとは思っている。



団塊の世代ということをも自分自身で意識したことはないが、小学校の頃から競争が激しかったという記憶はある。その半面、友人も多いかもしれない。

この世代だからということではなく、誰もが経験するような青春時代を送ってきた。ただ、早くから労働組合活動をしており、昭和42年の入社以来、毎年のように賃上げ闘争をはじめとするストライキがあったし、70年安保前後は政治的な行動もあった。今の若い人の中にはストライキを知らない人もいるだろうが、自分なりに充実した活動だったのではないかと考えている。

「退職者の会」を通して、退職後も組合活動は続けていきたい。また、ボランティア活動などで地域に貢献したい気持ちもある。そのためにも、とにかく健康には気を付けていきたい。

「卒業」後の社会変化に注目」

高津 敏雄 さん(昭和24年生まれ)

団塊の世代として、われわれの世代が「卒業」した後の社会や会社の変化に注目したい。同年代の仲間がいなくなった後、会社はどうなっていくのだろうか。自負しているわけではないが、われわれの年代は精一杯働いてきたと思っている。それだけに、これからどう変わっていくのが見ていきたい。



退職後の生活については、少し前まではいろいろと余生を楽しむことを考えていたのだが、今はむしろ働くことで生き甲斐を見つかけたいと考え始めている。60歳で定年になったからといって、のほほんとしていられる時代ではない。働ける間は働きたいし、そうしなくてはいけないかなとも思っている。これまで長年培ってきた経験やノウハウを活かせる仕事につければいいのだが……。

また、同世代には、ソフトテニスという共通の趣味を持った仲間がいる。これをできるだけ長く続けていきたいというのが希望だ。また、組合活動もさることながら、地域活動にもできるだけ協力していきたいと思っている。

「ケセラセラの心持ちで」

中條 明広 さん(昭和24年生まれ)

最近、「人生の楽園」1月10万円で生活出来る町村」という番組をよく見ている。定年などで退職後、あらたな地域であらたな仕事を見つけて、再出発する家族の話である。自分たちにあてはめているのか、私たちの世代は、結構見ているようだ。



昔の定年後は、ほとんど年金中心で、悠々自適とまではいなくても、まあ、よほどの贅沢でもしない限りは生活できた。

今は、そう簡単ではなさそうだ。年金の支給開始年齢が改悪され、私はちょうど65歳からの支給だ。それでもまだ、基礎年金分は出る。いずれそれもなくなり、65歳以上でないと一切支給されなくなる。

団塊の世代以降は、定年以降の生活は安閑としていられないという訳だ。まったくついてない。なんでこうなるの、と愚痴のひとつも言いたくなる。しかし、どうにもならない。

定年以降の生活は自分達で考えるしかないようだ。これまで苦労してきたのだから、これからは、できれば楽しみながら好きなことをして、ささやかでも、カミさんと二人でのんびりと暮らしていければいいと思っている。どうすればいいの。そんなこと今は分からない。きっと厳しいのかもしれないが、でも、なーに、2~3年考えて生き方を探せば、何とかかなさ。ケセラセラだ。そう自分に言い聞かせている。

「報われない世代かも……」

真田 重樹 さん(昭和24年生まれ)

「団塊の世代」だということはあまり意識していなかったが、そういえば採用された時は、労働者にとって買い手市場だったせいか、随分と給料は安かったな。高度経済成長時代に入ると、残業残業で朝帰りも日常茶飯事だった。随分と働いたよなー。



今は、一気にコンピューター時代になってしまったが、随分と世の中変わってしまったような気がするね。老後の生活は、不安がいっぱいだな。退職金も減らされるだろうし、年金もどんどん少なくなる。再就職といっても、なかなかいだろうしね。そして、医療費は増える。カミさんより3年早い定年となるが、子供もいないし、老人施設にしても、間口が狭くなるだろうし、きっと高いだろうしね。これまでの様々なしわよせが一気に来るという感じだね。

カミさんとはキチンと話したことはないが、実家にお袋を残してきており、畑も少しあるので、好きな農業でもやって、自給自足の生活でもしようかとも考えている。もしかしたら、カミさんもあうんの呼吸でそう思っているかもしれない。しかし、田舎なんて、医療のことなどは不安だよな。

それにしても、「団塊の世代」は大量に生まれ、一斉に就職し、一斉に退職するのだよね。苦労してきたことが、報われない世代なのかもしれないね。

Q&A

お尋ねします 「定年後の生活設計」

団塊の世代アンケート調査 北海道労働者福祉協議会

北海道労働者福祉協議会は昨年10~11月、(社)北海道雇用経済研究機構と連携して、「団塊の世代」とされる昭和21~25年生まれの連合北海道組合員1500人を対象に「団塊の世代アンケート調査」を行った。「団塊の世代」の退職期を迎え、リタイアする仲間の生涯生活を応援し、生き甲斐のある環境づくりに資することを目的としたもので、定年後の就業環境や希望、老後の生活の青写真などについて尋ねている。その調査結果の一部を紹介する。

就業環境について

Q. 定年退職後の就業希望についてお聞かせ下さい。

- A 1. 年金だけでは足りないから就業を希望する
- 2. 仕事が生きて甲斐であるから就業を希望する
- 3. 年金だけでは足りないが、働くことに疲れたから希望しない
- 4. そこそこの生活が出来るから、のんびりしたいので希望しない
- 5. 健康に自信がないから希望しない

最も多いのは「1. 年金だけでは足りないから就業を希望する」で63.1%。また、「2. 仕事が生きて甲斐であるから就業を希望する」は4.8%あり、広義の就業希望が合計して7割弱を占めた。他方、「3. 年金だけでは足りないが、働くことに疲れたから希望しない」は12.1%、「4. のんびりしたいので希望しない」は14.4%、「5. 健康に自信がないから希望しない」は4.0%だった。

老後の生活の青写真について

Q. 定年退職後、一番気がかりなことをお聞かせください。

- A (複数回答) 1. 収入が減少すること 2. ご自身の健康
- 3. 家族の健康 4. 老親との同居
- 5. 労働組合との関わりがなくなる
- 6. 会社・企業との関わりがなくなる
- 7. その他

断然多かったのが「1. 収入が減少すること」で78.6%。次いで「2. 自身の健康」が58.0%、「3. 家族の健康」が44.7%だった。

Q. 定年退職後の生きがいについてお聞かせ下さい。

- A 1. 仕事 2. 趣味
- 3. やりがいのある地域活動(社会貢献)
- 4. 休息 5. その他

「1. 趣味」と答えた人が断然多く81.7%、次いで「2. 地域活動(社会貢献)」が27.2%だった。「3. 仕事」が生きがいと答えた人は13.6%と低かった。

労働福祉事業について

Q. あなたは退職後、「生涯組合員」として参加したいと思いませんか。

- A 1. 参加したいと思う 2. その時になって判断する 3. 参加しない

連合北海道が検討している「生涯組合員構想」について尋ねた。生涯組合員として「1. 参加したいと思う」が20.5%、「2. その時になって判断する」が49.7%、また「3. 参加しない」は27.5%だった。

